成願寺

季報
101

平成26年6月18日
(2014年)

目次

「人のためになるということ」塩入亮乗……1
百観音像平成大修復完了の報告……7
中野たから幼稚園卒園遠足の報告……8
春の坂東観音詣りの報告……9
フレデリック・ダグラス・アカデミー坐禅会報告……10
山内短信……11

発行　多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町 2-26-6
電話　03-3372-2711
制作　地人館

春の観音詣り説教

人のためになるということ

聖観音宗浅草寺・法善院住職　塩入亮乗

皆さま、お久しぶりでございます。平成十四年のこの日、同じようにお詣りいただきまして、同じようにお話を差し上げました。今回はどんなことをしゃべろうかと思いましたが、はじめに観音さまのお話をさせていただきたいと思います。

聖観音宗浅草寺・法善院住職
塩入亮乗師

ご存じのように観音さまは、音を「観る」と書きますね。普通「みる」という字は「見」が使われます。目があって足が付いているような字。これは人間が物をみる時に使います。他には「看る」というのがございます。これは目の上に手が付いている。看護士さんの「看」ですね。例えばおでこに手をあてて熱をみたり、脈拍をとるのも手なんですね。まさに手が目となって患者さんをみているわけです。

では観音さまの「観る」はどういうことかと申しますと、上空から物事を見渡たしているようにみておられます。何をみているのかと言えば、音や声をみておられる。音をみるということは、皆さま方も台所から「がっしゃーん」と聞こえてくれば「あ、なにか割ったな」とわかるわけです。柱の側で「ごんっ」と音がすれば「今度は足をぶつけたな」となる。実際に目で確認していなくてもわかるわけです。

また、声をみるということで申しますと、赤ちゃんの「おぎゃー、おぎゃー」という泣き声は、女性

の方はよくおわかりになりますね。「あら、お腹がすいたんだわ」とか、「今度はオムツね」とか、目で見て確認する前にわかっちゃうんですね。男性陣にしてみますとみんな同じ「おぎゃー」に聞こえるわけですが、これが母親、女性のすごいところなんです。

これは言葉ではないんですね。声を聞いてわかるわけです。言葉でしかわかってもらえませんでしたら、まだ言葉を話せない赤ちゃんなんかは救うことができません。音とか声で判断して救ってくださるのが観音さまなわけです。

先ほど本堂で「般若心経」と「観音経」をお読みいただきましたが、観音さまがいろいろに変化、変身すると出てきます。これはどういうことかと申しますと、顔かたちが変わるとか衣装が変わるということではないんですよ。これはね、あるときは誰かの目になったり、あるときは手になって荷物を持ったりするということ。例えば背の小さなお子さんが切符の券売機の前で手が届かずに困っていた。それを「どこまで行くんだい」と聞いて、代わりに切符を買って渡してあげたとしましょう。これは背の小さい子どもさんの、券売機に届くまでの背の代わりをしたということです。目の不自由な方の手を引いて差し上げたらその方の目になった。足の不自由な方の車椅子を押して差し上げたら、その方の足の代わりをさせていただいたことになるでしょう。これは立派な変身なのです。

観音さまの功徳というのは、姿を変えて助けてくださるとお経に出てくるのですが、姿が変わるというよりもその方の身になるという変身の仕方。これが観音さまの功徳であり、これは我々もできることです。ですから「あの方は観音さまのような人だ」なんて思ったりします。赤ちゃんにとって母親はまさに観音さまのような存在でしょう。その身近にいる存在を観音さまと感じられるかどうか、そこに信仰、信心というものがあるように思うのです。

仏教徒として浄土を考える

昨年成願寺の方丈さまからお手紙をいただきまして大変恐縮したのですが、「中外日報」という宗教・文化専門紙がございまして、その紙面に四回ほどの連載をいたしました。それをお読みになられて、コピーをとって皆さんに配ってくださったという手紙の内容でした。では私が中外日報にどういうことを書いたのかを申しますと、原発のことを書きました。

色々なご意見があることを承知した上で、私の考えを言わせていただきますと、やはり原発は早く止めていただきたい。それが心情です。先の震災による事故によって、言い尽くせないほどの被害が出ています。被災者の皆さんは、故郷を離れ、しなくてもいい苦労を強いられています。事故当初の政府の発表ははっきり言ってでたらめでした。「放射能は心配ありません」なんて言っていましたが心配だらけでした。「安心してください」と政府の高官がしゃべっているのがよくテレビで流れていましたよね。

我々は仏教徒でございますから、求めるところは浄土なんです。浄(きよ)い土と書くんです。では浄土はどこにあるのかといえば、余所にあるのではない、足元になくちゃいけません。その浄土が放射能で汚染されて、穢土(えど)のままではいけませんね。穢土というのは、迷い、苦しみの多い衆生の住む国土をいうのです。浄仏国土の建設が仏教徒の目標なのです。

原発がなければ不便じゃないかという方もいらっしゃいます。でも不便ではいけないのか、とも思います。便が良いのがイコール本当の我々の幸せなのでしょうか。不便なことに幸せを感じることもあるかもしれませんよ。どうも、便利なことが幸せであると勘違いしているのではないかと思うわけです。

また、震災の時はボランティアの方が大勢協力されました。なにか自分にできることがないかと真摯な思いで赴き、被災者の方には大きな助けになったことは間違いないでしょう。でも全てのボランティアが良いのかと申しますとあやしいこともある。聞いた話ですと、都会で家も職もないような人がボランティアだと現地に行きまして、そのまま居着いちゃうなんてこともあったそうです。または、「ここにレジャー施設を造る、資金は後で考えればいい」なんて言ってね。結局できないと「全部政府が悪い」と、夢を語って弱っている人々を惑わすようなことをしたボランティアもいたそうです。

もう一つはこんな話もお聞きしました。ジブリの宮崎駿さん、あの方はヘビースモーカーなんだそうです。それで被災地にたばこを送った。そうしましたら、「健康に悪い物を送ってきた」と批判を受けた。でも実は、そのたばこが、多くの愛煙家を癒したというんですね。

我々も良いことをしたつもりで、結果として良いことではなかったということもございます。例えば毛布。これは皆さんの善意で、被災者の方々に寒い

思いをさせていけないと思って送るわけです。ですが、役に立った毛布は良いのですが、うまく被災者の手に渡らなかった物は倉庫に入れられた後に全て燃やされたそうです。これはね、段ボールに入れて送りますよね。そのまま倉庫に積まれて一夏過ぎるとどうなるか。ダニや虫だらけになるんですね。そうするともう燃やすしかないんだそうです。

ですから、困っている方の役に立てばと思って何か送る時には、送りっぱなしではなく、ちゃんと手に渡って役立つかまで考えなければいけませんね。

学者で多くの著書のある養老孟司先生はおもしろいことをよく言われます。「我々はたいてい病院で生まれていずれ病院で死ぬ。だからいまは仮退院中ですよ」なんてね。それから田で伸びる稲穂をご覧になって「あそこに私がいる」とおっしゃる。どういうことかと申しますと、田んぼで穂を伸ばす稲はやがてお米になって自分の口に入り、それが血となり肉となる。だから稲穂をご覧になって「あれは私だ」とおっしゃるんですね。そういう見方をされている。私という稲穂が育つ田はやはり浄土が良いですね。

こういうように視点をちょっと変えてみて、もう一度あらゆるものを見直さないとならない時期がきております。便利なことばかりを追いかけていますと、やっぱりどこかにひずみが出てくるのです。

受け継がれる言葉

皆さんは川内康範さんをご存じでしょうか。私が大好きな方でした。歌手の森進一さんの「おふくろさん」の歌詞を作った方です。この方は北海道の日蓮宗のお寺のお生まれでした。このお母さんがすごい方だったそうで、康範さんは生涯怒られたことがないと言うんですが、例えば「学校へ行きたくない」と言いますと、普通は行かせようとしますよね。ところがこのお母さんは「いいよ。でもお経だけは読みなさい。良いことがたくさん書かれてあるから」とこう答える。何か一般常識にとらわれない、仏教という確固とした教えに寄り添って物事を考えた人のように思います。

ですから、康範さんへの口癖が「人を助けなさい」ということ。「世の中の傘になるんだよ。お前が濡れれば誰かが濡れなくて済む」といったことを教えて子どもを育てたんだそうです。お母さんの言葉は康範さんの身に沁みて、それが「おふくろさん」の歌詞へとなっていくわけですが、このお母さん、普

段どういうことをしていたかと申しますと、お寺では法事がございます。するとお供物があがりますね。お寺の子どもでしたら、「今日はバナナが上がっているな、あとで食べられるかな」なんて思うわけです。それが法事の後に供物が下がってきますと「これは困っている方の分だよ」と言って子どもの口には入らない。路上生活者のところへ持って行くんです。すっと近寄って「元気でね」「元気でね」とぱっと渡して去って行く。そういう渡し方をしたんだそうです。別の言い方をしますと「疾風(はやて)のように現れて」。そしてしょっちゅう差し上げるわけでもないんですね。しょっちゅう差し上げてしまうと路上生活者があてにするわけですよ。ですから忘れたころに差し上げるんです。「どこの誰かは知らないけれど」でも路上生活者の方が忘れる直前に来るものですから、「誰もがみんな知っている」んですね。「月光仮面」のお話は康範少年が見ていたお母さんなんですね。

康範さんは家出のように東京へ出てくるわけですが、その教えを忘れたことがないんです。皆さんのご記憶にもあると思いますが、グリコ・森永事件というのがございました。かい人21面相を名乗る犯人が食品会社を標的にして、青酸入りのお菓子をお店に置くというようなことをした事件でしたが、この時康範さんは犯人に対して「一億二千万円を提供するからこの事件から手をひけ」と呼びかけるんですね。でも実は一億二千万円も持っていなかった。手元には二千万円しかなくて、あとの一億円は借金だった。結局犯人は要求に応えなかったものですから借金もなくなったわけですが、康範さんは子どもたちが危険にさらされるぐらいなら、自分が借金を負えば良いと考えたんですね。これはお母さんの教えの「お前が濡れれば誰かが濡れなくて済む」ということなんですね。

「おふくろさん」はお母さんの教えそのもの、いわば遺言なんです。それが後に騒動となりましたが、あれはお母さんの遺言ともいえる詩に森進一さんが勝手に言葉を加えてしまったんですね。

ここでお聞きしますが、みなさんは遺言とはなんだと思われますか。自分の財産の「これは誰々に、これは誰々に」と判子を押して文書にするのが遺言だと思われていますね。でも、もう一度、遺言の字を見てください。これは「遺す(のこ)言葉」、または「遺っている言葉」なんですよ。みなさんも、亡くなられた方の言葉を覚えていたら、心に刻まれていたら、

その方は生きているんですよ。「おじいちゃんはいつもこんなことを言っていたのよ」なんて時折り話に出しますと、亡くなったおじいさんはちゃんと皆さんの中に生きています。だから夢に出てきて声まで聞こえちゃう。

震災でたくさんの方がお亡くなりになりました。この方々もきっとたくさんの遺言を遺しています。重ねて言いますが、紙に書いたものが遺言ではないんですよ。普段言っていた言葉が、それが誰かの記憶にあればそれは「遺っている言葉」遺言なのです。これは遺志を受け継いだことになる。それが実は一番の供養ではないかと私は思うのです。

あの頃、メディアでは盛んに絆ですとか繋がっているという言葉を使っていました。絆というのは糸の半分と書くんですよ。こちら側とあちら側で半分ずつ糸を握っていれば、それを互いに離さなければ繋がっているんですね。私たちもご先祖さまと繋がっているということを震災を通じて見直さなければいけないと思っております。

最後に私が最近良いなと思っていることをお話させていただきますと、それは自己満足ということです。これは良いんですよ。だって自分が満足できなかったら、常に不愉快でしょ。先日テレビである番組を見ていましたら、クリスマスに大量のカードを郵便局から出そうとしている方がインタビューを受けていました。何かといいますと、児童養護施設の子どもたちへ送るものだと言うんですね。この方は長年続けているのではなくて、ようやくご自身の商売が軌道に乗ったから数年前から始めたということで、実はご本人もご両親を知らない、施設で育ったと話されていました。

また暮れになるとランドセルを贈るタイガーマスクなんかも良いですね。名前を明かさないということが、これも一つの自己満足ではないかと思うんですね。あるいは誰に頼まれたわけじゃなくても交通整理を朝からやっている人とか、公園の落ち葉を掃いている人とか、こういうことは良い自己満足だと思いますよ。事故も無い爽やかな朝、またきれいになった公園を見てひそかに喜ぶ自己満足。みなさんも何か見つけて実践されると良いかなと思うわけでございます。

本日は色々とお話させていただきましたが、どうか一つだけでもお心にのこしていただきたいと思います。ありがとうございました。

合掌

百観音像 平成大修復完了の報告

観音堂（圓通閣）に奉安されている聖観音と、西国・坂東・秩父の観音札所のご本尊を模刻した百観音像は、昭和四十三年（一九六八）から七年ほどかけて彫られ、昭和五十年に開眼供養が厳修されました。

成願寺と観音様とのご縁は開基鈴木九郎が浅草寺に参拝したことに始まりますが、百観音像に関する記録は『末山記録』に十世住職破了大和尚（享保十八年〈一七三三〉没）の代に百観音像が安置されたと記載があります。また文政元年（一八一八）の『嘉陵紀行』成願寺の項には茅葺きの百観音堂があると記され、八年後に刊行の『新編武蔵風土起稿』には銅造り二尺八寸（約九〇センチ）の観音像が安置されていると記述されています。明治時代にはお檀家より寄進された百観音像が安置されましたが、後のアメリカ軍の空襲で観音堂もろとも灰燼に帰し、信者のお宅で焼け残った御巡回仏一体のみが本堂位牌棚に安置されてます。

右＝小指の欠損を補作して色彩の補修を施す（西国八番十一面観音）。左＝蓮華の茎の折れを修復してつけ直し（西国二十七番如意輪観音）。

昭和五十年の開眼供養より歳月を経て、各観音像に欠損や汚れが目立ち始めたため、翠雲堂、仏師の渡邉雅文師にお願いし約三ヶ月かけて修復をしていただきました。全ての観音像に台座の割れや光背のぐらつき、持物や指の欠損があったとのことですが、一体一体丁寧な補修がなされました。

また、本堂内陣の天蓋や瓔珞、浄華などの清掃と傷んだ表面の金箔の修復、色の補修作業も専門業者によって行なわれました。輝きが蘇り、より荘厳な雰囲気となりました。

中野たから幼稚園 卒園遠足の報告

小春日和に恵まれた二月二十六日（水）、成願寺付属中野たから幼稚園年長クラスの卒園遠足が実施されました。八時十五分に園庭に集合。佐々木園長より「今日は幼稚園を無事に卒園するお礼のお詣りに行きます」とお話がありました。

大型バスに乗り込むと、横を走る総武線や大きな東京タワー、羽田空港や工業地帯の長い煙突を車窓に眺め、途中、卒園式で予定している歌の練習などするうちに鶴見の大本山總持寺へ到着。

受付のある香積台という建物から入りましたが、皆きちんとおじぎをして作法にならって左足から入堂します。二列になっておしゃべりをせず、広い總持寺の中を案内してくださる雲水さん（修行僧）に導かれて、まずは百間廊下へ。百五十二メートルもある長い廊下は端から端までぴかぴかに磨かれています。毎日毎日修行僧の方々が雑巾がけの修行をされているとのお話をお聞きしました。続いて坐禅堂として一般参禅者に開放されている衆寮にて坐禅を組ませていただきました。独特な雰囲気の堂内、中央に安置された准胝観音様の坐像にやや緊張の子どもたちでしたが、皆落ち着いて立派に坐ることができました。

衆寮を出ると修行僧の皆さんが寝起きし、修行の中心のお堂である僧堂、山内の時間を司る鐘鼓楼の説明をお聞きして、總持寺で一番大きな大祖堂へ。

こちらでお焼香をして、無事卒園する旨お礼のお詣りをさせていただきました。最後に木彫りでは日本一の大きさという大黒さまに参拝。副監院心得山口正章老師にお見送りをいただき、御本山を後にしました。

帰りに川崎市宮崎台にある「電車とバスの博物館」を見学し、幼稚園への帰路へ着きました。（了）

衆寮のご本尊である准胝観音様に見守られながら坐禅を組む園児

大祖堂（本堂）でのお焼香

香積台前で記念写真

春の坂東観音詣りの報告

四月二十九日（昭和の日）恒例の春の観音詣りは、成願寺の開基鈴木九郎と縁の深い十三番浅草寺と十四番横浜弘明寺を巡拝しました。

雨の予報でしたが、朝はなんとか曇り空。成願寺に八時に集合して観音堂でお経ののち、バスは浅草に向けて出発します。連休初日の都内の道は渋滞もなく、九時には浅草寺裏手の駐車場に到着。聖観音宗浅草寺・法善院住職の塩入亮乗師が出迎えてくださいました。導かれるまま本堂に入ると、普段は立ち入ることのできない御宮殿前までご案内いただきました。金色に耀く御宮殿は間口四・五メートル・高さ六メートル、総金箔押で御本尊の秘仏聖観世音菩薩と慈覚大師の御作というお前立のご本尊が安置されています。御札、献花、供物がずらっと並び、私たちの背後には途切れることを知らない参拝の方々…、鈴木九郎もお詣りした観音様の聖地を訪れた感激に浸りました。塩入師より脇侍の愛染明王・不動明王などのご説明受け、お経を上げさせていただきました。その後、堂内をぐるりと拝観。通称「裏観音」と呼ばれる、本尊様の真裏に安置された観音様にも参拝させていただきました。本堂を出ると五重塔でお説教を拝聴（一頁参照）。

浅草寺では「大絵馬寺宝展と庭園拝観」が震災復興支援の一環として行なわれていて、戦禍を免れ伝わった江戸中期から明治にかけて奉納された大型の絵馬が多数展示され圧巻。徳川将軍家から奉納された金蒔絵の双新馬。谷文晁、高崇谷、狩野一信、鈴木基一など錚々たる絵師が手がけた素晴らしい絵馬を拝見しました。緑豊かな庭園を散策してバスは横浜へ。

弘明寺は僧行基が一刀三礼して彫刻したという国重要文化財の十一面観音がご本尊の名刹。折良くご開帳に当たり、本尊さまを拝しながら内陣にてお経を上げさせていただきました。帰りは中華街の名店重慶飯店で伝統的な中華料理に舌鼓。中華街を散策して成願寺への帰路へつきました。（了）

賑わいを見せる浅草寺

伝法院庭園を散策（浅草寺）

記念撮影（弘明寺）

フレデリック・ダグラス・アカデミー坐禅会報告

去る二月二十日(木)、ニューヨークの公立校F・D・アカデミーの生徒七人と教員二人が来山しました。この行事は平成十七年から続き、生徒の皆さんは東京各地を巡る研修旅行の一環として訪れます。今年も当山では、八王子市少林寺副住職大石隆元師の指導により坐禅体験を行ないました。本堂にて一つ一つの作法を教わると、約四十分、全員で立派に坐ることができました。

第二部の日本文化体験では、沖縄空手道剛柔流尚礼館成願寺道場の皆さんの指導で空手体験を行ないました。型の演技、護身術の指導の後、抜刀、棒術の演技も披露され、生徒の皆さんはカメラを手に興味深く見学しました。英文で感想が届きました。翻訳して紹介します。

到着後、書院にてお茶のおもてなし。

本尊様の御前での坐禅体験。まじめに取り組みました。

空手の指導を受ける生徒さん。護身術を学びました。

＊坐禅をしている間、非常に心が静まり、時の経つのが感じられませんでした。そして、何も考えないようにしました。私は禅を実行し、無になるように試みたいと思います。

＊私は、お寺の中で寒さを感じなくなることを学びました。そして、一時間近く坐っていたのに、ほんの五分くらいにしか感じなかったことに驚きました。空手道場の人たちの、日頃行なっている伝統的な演技は魅力的でした。

＊お坊さんが実際に話した知恵の言葉は、私に私の考えが間違っていたことに気づかせてくれました。坐禅は興味深い経験でした。空手の演技をして下さった人に感謝します。ニューヨークでも、こういう教室に行きたいと思います。

＊坐禅の最初の時、お坊さんが

坐禅の目的は苦しむことではないと言ったときに、私はじっとしていられないのではないかと心配しました。でも、先生が後で言うには、私は、少しも動かなかったそうです。それが本当に自分でも誇らしいと思います。

＊坐禅が済んだ後、私は、私の別の部分が新たに生じたと感じました。今では、いつでも坐禅をしているような気分で、とてもリラックスしています。また、自分の身を守れるように、空手の動きを教えてくれたことに感謝しています。自分の内面を見つめる経験をさせてくれた人たちに改めてお礼を言いたいです。

＊私は、武道の剣技と棒術の演技を見てとてもびっくりしました。お寺で過ごした感動の時間でした。

「フレデリック・ダグラス・アカデミーファミリーは、ニューヨークの学生へ、誇り高い美しい日本の尊敬すべき文化を伝えることへのあなたの関与のために、最も真実の謝意を与えます（翻訳）」と記された記念の盾をいただきました。

山内短信

◎春彼岸会の報告

去る三月二十一日（金）、春彼岸中日法要が厳修されました。天候も良く、大勢のお檀家さんが参列されました。法要に先駆けて、女流講談師の日向ひまわり師に高座をおつとめいただきました。豊かな表情、リズミカルな語り口に引き込まれ、堂内は和やかな雰囲気に包まれました。

◎学術研究振興基金「小笹会」へのお問い合わせ

【小笹会趣旨】小笹会は佛教ならびにアジア、アフリカ地誌を中心とする学術研究振興助成と、勉学の志に燃える学徒の生活相談という二大目的を持つ。応募要項、願書をご希望の方は寺務所（ＦＡＸ〇三‐三三七二‐二七七四）まで。

【申込受付】随時　【審査発表】約五十日後

◎前田康成氏展覧会のお知らせ

当山の縁起をもとに創作した絵本「なかのちょう

じゃとじょうがんじ」の作画を手がけた前田康成氏の展覧会が左記日程で行なわれます。いずれも京王プラザホテル。案内ちらしを希望の方はお寺まで。

【企画展】六月一日（日）～三十日（月）

【個　展】八月十一日（月）～八月十九日（火）

◎七月十一日（金）盂蘭盆先祖まつりのお知らせ

午前十時半　　受付開始

午後十二時半　開山・歴住諸大和尚　追善供養

午後一時　　説教「お盆のこころ」

大本山總持寺副監院心得・福井県龍泉寺住職 山口正章老師

午後二時　　先祖まつり法要・檀信徒総供養

＊東京近郊は七月十三日～十五日がお盆です。その間、寺から檀信徒各家へお棚経に伺います。これまで伺っていないお宅で棚経をご希望の方は、早めにお申し込みください。

◎秋の観音詣りのお知らせ

十一月九日(日)出発を予定。巡拝先は左記企画中。

①能登の大本山總持寺祖院宿坊に泊まり、朝のおつとめに参列。翌石川県内の名刹を巡拝し、和倉温泉泊の二泊案。

②伊豆修禅寺参拝をメインに神奈川県西部と静岡県の名刹巡拝の一泊案。

③西国札所巡拝はじめの二泊案。

＊毎日新聞社から取材を受け、三月二十八日（金）夕刊に当山の記事が掲載されました(下掲)。後日読者で終戦まで東郷町に住まわれていたという加藤氏(藤沢市)、白井氏（府中市）よりお手紙をいただきました。左写真が境内のケヤキ。

権利の関係で紹介できません。